

平成 25 年度うおぬま市まちづくり委員会-全体会  
福祉健康部会の活動報告(6月14日報告資料)

私達の部会は、昨年(平成24年)の6月15日&27日を最初に、月例会議を11回と部会の準備会、運営委員会兼拡大役員会を3回実施し、併せて全体会、合同会議、高浜市への研修会に延15名参加、前半は「新病院と地域医療」を基本テーマとして市民講座や健康寿命の研修&意見交流会を6回実施し、後半は、「私達のめざす福祉健康部会&まちづくり委員会」を基本テーマとして5回の意見交換会兼提案をし合う中で、意見交流と協議を図り、各委員が一番やりたい事、やって欲しい事、取り上げて欲しい事を市民を巻き込んで具体化するための協議を重ねて来ました。 ※ 内容要旨は下記及び別添の通り

(活動内容の要点)

定例会の出席率は約半分弱で平均は8.5名程度です

下記2回目の7月22日は、出前講座と併用して小出病院の布施医院長をお招きして、公開市民講座を開催、約50名の出席を得、この部員以外の方を含めた平均は、16名となります。以下参照。

- ① 6月27日、定例会…6月15日の全大会議の声を引き継ぎ新年度の活動方針と重点活動について意見交換・協議をしました。
- ② 7月22日、公開市民講座として、「住民が資源」という理念への、市民の立場で出来る具体的な係わり方のお話を聞く中で、各世代・男女を代表し5名の委員から代表質問を頂き、先生との質疑応答の中、意見交換をしました。

※ 内容は小出郷新聞の7月27日号の一面トップで大きく報道されました。

なお、この時アンケート調査をし26名の回答が有りました。

- ③ 8月22日、定例会議 前回の反省と今後の活動の重点について意見交換し、今後「新病院と地域医療」を基本テーマとして活動することにしました。
- ④ 9月20日、議会の地域医療対策特別委員長-佐藤肇議員を招き、議会の特別委員長としての立場から、現状と課題等をお聞きする中で、有意義な意見交換をしました。
- ⑤ 10月22日 定例会議 前回の反省と今後の活動の重点について意見交換をし、次回は健康増進室長をお招きして、魚沼市の健康づくりの課題と健康寿命について、意見交流を図ることに決定。
- 高浜市への研修、全29名中、部会委員は5名参加した。
- ⑥ 11月27日、佐藤洋子健康増進室長をお招きして、下記学び交流。
  - ・ 魚沼市の生活習慣病、食生活、ストレス、心の病、糖尿病等々の市民の歴史的な傾向を学び、今後の市民の健康創りと、特に健康寿命について、
  - ・ 長野県に追いつき追い越すための様々な意見交換を深めました。

- 12月8日、全体合同会議、6名参加、
- ⑦ 1月17日、新年会、9名参加 -- 新年の抱負・初夢と、私達のめざす魚沼市等・で交流、大変良い意見出されたが、新年会という事で記録はありません。
- ⑧ 2月27日、定例会議 9名出席、今後の活動の方向・重点、後期の基本テーマや部会の改革すべき点等、試案を事前配布・提示し意見交流後、次回は、①私のやりたい事、②やって欲しい事、③取り上げて欲しい事等を提案し合い、各自で文面化して持参する事とした。
- ⑨ 3月26日、定例会議 7名出席、前回の提案事項を文面化した提案者3名の私案について協議、より良い部会活動と改善・改革点等の意見交流を図り、まちづくり委員会全般についての改革も協議、①私のやりたい事、～③等を提案説明の中、内容を審議、交流した。
- ⑩ 4月21日、定例会議 6名出席、前会の継続審議方、部会活動の改革点と方向について意見交流、新年度の役員体制の意見交換を図る。
- ⑪ 5月22日、定例会議 9名出席、これまでの継続深議と全大会6月14日の予定を報告方、14日の会議は市の新10か年計画が中心になる旨を伝え、この部会としての意見協議及び役割分担を図った。
- 6月14日、全体市民会議、詳しい予定を部会委員に周知、参加呼びかけを図る。

概要、→ 以上の活動要点の中で、  
前半の「新小出病院と地域医療」の基本テーマでの研修、学び合い、意見交換、アンケート等々の中でのまとめの要約、別紙1のとおり

また、

後半の「私達のめざす福祉健康部会&まちづくり委員会」を基本テーマとしての5月22日時点の提案合意事項の要約、別紙2のとおり

以上、このような共通認識の中で今後の具体的な活動方向は、新役員体制の中で、今後(7月中旬を予定)新健康課長等との意見交流、交換、協議の中で、市民を巻き込んだ具体化を検討、深化させて行く計画で、7月の会議後新しい体制と方向が鮮明に成る事を期待します。

別紙 1-1(前半の取り組み)

新小出病院と地域医療への取り組みの要約(内部資料)

下記のような話合いを行った。

将来、可能なところから実現をしていきます。

[K] keep 継続すべき良い点

- ・魚沼市の医療関係者は一生懸命
- ・医療関係者が協議できるのは、とても良い。
- ・市民との共働的姿勢が見える。
- ・老人クラブでお医者さんの話を聞く機会が増えた。
- ・井口新田地区での取組みは、模範的取組である。
- ・小出病院の先生は献身的に診療してくれている。
- ・説明資料も毎回のように改良されていて、布施医院長の姿勢には頭が下がる。
- ・文化会館やスキー場などに住民参加の実績がある。
- ・人間関係で医師を確保する。
- ・地域との良好関係で医師を確保する。(地縁・血縁・奨学金など)

[P] problem 問題点

- ・介護施設勤めでは悲観的な言葉を聞く。
- ・一人世帯こそ外へ出たがらない。外との繋がりが大事。
- ・努力では逃げられない病もある。
- ・自分の責任で自分のやりたいことをやれる子供の逃げる場所が少なくなった。
- ・制度が追い付いていない。規定に当てはまらないと相手にもされない。
- ・ボランティアの高齢化が進んでいる。
- ・市当局とまちづくり役員が魚沼市の課題を共有化していない。
- ・資金、運営方法を心配している。
- ・バスの運行を心配している。
- ・新小出病院組織には忙しい人が多いので、心配がある。
- ・医師の確保に心配がある。
- ・小千谷病院等との競争の中で、小出病院に患者が来ない心配がある。
- ・医者が減るにつれて患者が減っている。

別紙 1-2

[T] try やってみたいこと

- ・小さい頃からの健康教育が大切。
- ・健康の生涯プランができるといい。
- ・助け合いながらグループホーム的生活。
- ・校区毎に「心の教育振興会」を設ける。
- ・「じよんのびサロン」の普及。
- ・地域ごとに気軽に集まれる場所を。孤独の病を防ぐことが大事。
- ・福祉運送の充実を図る。
- ・ファンドでシルバースナックやラーメン屋を開設。
- ・仕事を辞めて活力のある人々の活躍する場が必要。
- ・机上から地域へ出る仕事が必要になった。
- ・健康講座の充実と普及。
- ・教育（今日行く）と教養（今日用がある）が大事。
- ・先々にサポーターズクラブ的小出病院支援をする。
- ・子供が喫煙しない教育の徹底。
- ・ジャンクフードを食べさせない（食育）
- ・医師確保には新しい発想・取り組みも必要（例：耕作放棄地の提供等）
- ・地域通貨で地域貢献・ボランティア活動の活性。

別紙 2-1(後半の取り組み)

(内部資料)

私のやりたい事、やって欲しい事、取り上げて欲しい事。

(2014年5月22日現在)

福祉健康部会では下記のような話合いを行った。  
将来、可能なところから実現をしていきます。

1. 健康講座をシリーズで実施して、受講者にはカードを配布して、温泉入浴券等を褒賞とする。内容は市の担当課、保健師、まち委員等で協議し、市が実施して欲しい。

例・正しい食事と食生活の改善

- ・塩分控え目な食事と適度な運動
- ・健康体操と散歩を日課に
- ・喫煙をせず、間食はほどほどに
- ・あなたはお茶派、コーヒー派、紅茶派？正しい飲み方
- ・正しい入浴法と、魚沼市の温泉効能
- ・病気発生時の初期対応法、かかりつけ医を持とう。
- ・糖尿病との付き合い方と正しい食事療法

2. 健康づくり散歩コースの整備と表示

・小出地区の魚野川堤防は恵まれた散歩コースだが、いっそうの利用促進を図って健康づくりに役立てて欲しい。他地区の整備やアピールは尚更である。表示を充実させることで散歩コースとしての価値を上げて欲しい。冬場の散歩コースを更に進めて欲しい。

3. 第1段階として80%を目標として市民の健康診断、基本健診、受診推進運動の実施

4. 高齢者と子どもを止揚する法人を協働で設立したい。

- ・高齢者と子どもが共に生活体験、物作り学習、交流する場を持つことで高齢者の生きがい作り、保護者の負担の軽減、子供たちの多岐にわたる能力の向上を図る。
- ・子どもたちとは、3歳未満児、帰宅幼児、帰宅児童等
- ・高齢者とは定年後の教職員、保母等
- ・社会人や学生等と定期的にイベントを開く
- ・仕事に応じて日当を支払う

別紙 2-2

5. 小出病院への市民参加の第一歩として、空き地を花で飾り、通院者・入院者を励ましたい。地元やコミ協とも連携したい。
  - ・段階的には花展や菊祭など市民参加の憩いの場が欲しい。
  
6. 地域の助け合いを助長するためのボランティア通貨（地域通貨）を実現したい。
  - ・地域のボランティア活動を助長したい。
  - ・高齢者の生きがい作りを助長したい。
  - ・時給600円程度で道路除雪を実施して、通学路の安全確保、老人宅の門払い。